



市大キャラクター
『ヨッチー』

ネパールのクォパ工科大学と包括的覚書を締結 震災からの復興／防災まちづくり分野での連携

横浜市立大学は、ネパール・バクタプル市のクォパ工科大学（※）と包括的覚書（MOU）を締結しました。

2015年4月にネパールで発生したゴルカ地震は同国に甚大な人的・物的被害をもたらし、同国は現在、本格的な復興の途上にあります。歴史的市街地の復興に際しては、有形無形の文化遺産をまもりながら、都市の防災性の向上、社会経済の発展、コミュニティ参加の促進、住民の経済的自立、そのための法制度整備といった多岐にわたる課題を同時に解決していくことが求められています。

今回の締結により、本学が持つ都市計画、都市デザイン、防災まちづくり、歴史地区保全の専門性を活かした大学間交流をさらに促進します。

1. 調印式

- (1) 調印日 2016年9月16日（金）
- (2) 場所 横浜市立大学金沢八景キャンパス
- (3) 調印者 ・クォパ工科大学 Sujan Maka 学長
・横浜市立大学 窪田吉信学長



調印式の様子

2. 本包括的覚書（MOU）の主な内容

特に、震災からの復興・防災まちづくり分野で、下記の活動を行う。

（国際総合科学部まちづくりコース／グローバル都市協力研究センターまちづくりユニット）

- (1) 両大学間での共同研究の推進とそれに関連する国際協力活動
- (2) 両大学間での教員及び学生の人的交流を通じた教育・研究活動
- (3) 共同セミナー、国際会議、出版活動を通じた学術情報の交換

3. 今後の主な取り組み予定

学生交流プログラムとして、科学技術振興機構（JST）の「日本・アジア青少年サイエンス交流計画」（「さくらサイエンスプラン」）に2016年度～2017年度の交流計画が採択されています。また、本学では2019年度の海外学生フィールドワークをネパールで実施することを検討しています。今後、自治体や他機関とも連携し、ネパールの復興／防災まちづくりのための人材育成プロジェクトの形成を図っていく予定です。

クォパ工科大学（Khwopa Engineering College）：2001年に設置された公立大学。

所在地はネパール国バクタプル市。学生数400人。都市デザイン・都市保全研究科では震災後より、復興プロジェクトチームを設置し、特にバクタプル歴史地区の復興に向けた調査研究を進めている。

お問い合わせ先

グローバル推進室長

富田 勇一

Tel 045-787-2102

裏面あり

参考資料

スタディ・ツアー 「震災からの都市復興 -災害に強い都市環境整備を学ぶ-」

横浜市立大学グローバル都市協力研究センターまちづくりユニットでは、科学技術振興機構（JST）の日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」の支援をうけ、クオパ工科大学（ネパール、バクタプル市）より都市デザイン・都市保全研究科の大学院生8名、研究員2名、教員1名を招聘し、「震災からの都市復興」をテーマとするスタディ・ツアーを実施しました（9月16日～24日）。

ネパールでは2015年4月の震災以来、災害に強いまちづくりが都市計画の重要課題となっており、その中では、防災性向上、生活環境改善、伝統文化の保全等も考慮した持続的な都市の実現も求められています。本活動では、講義と現場見学を通し、日本の都市計画やまちづくり、防災の取り組みを紹介しました。今後は、包括的覚書（MOU）に基づき、共同プロジェクト、学生交流への展開を検討していきます。

【スケジュール】

9月16日	オリエンテーション、包括的覚書（MOU）調印式、講義、歓迎パーティー
9月17日	横浜の都市デザイン：講義とまちあるき
9月18日	防災を学ぶ：講義、横浜市民防災センター見学、木造住宅密集地区見学
9月19日 ～9月21日	東日本大震災からの復興： 仙台、女川、南三陸町、気仙沼
9月22日	東京見学
9月23日	ネパールの学生、教員によるプレゼンテーション、フェアウェルパーティー
9月24日	鎌倉見学

◆横浜の戦後の復興や防災の講義をうけるとともに、関内地区をめぐり、市民防災センターの体験ツアーに参加しました。



◆東北では仮設住宅や復興公営住宅の現状や課題、災害の記憶の残し方、住民主体の地区復興について学びました。

